

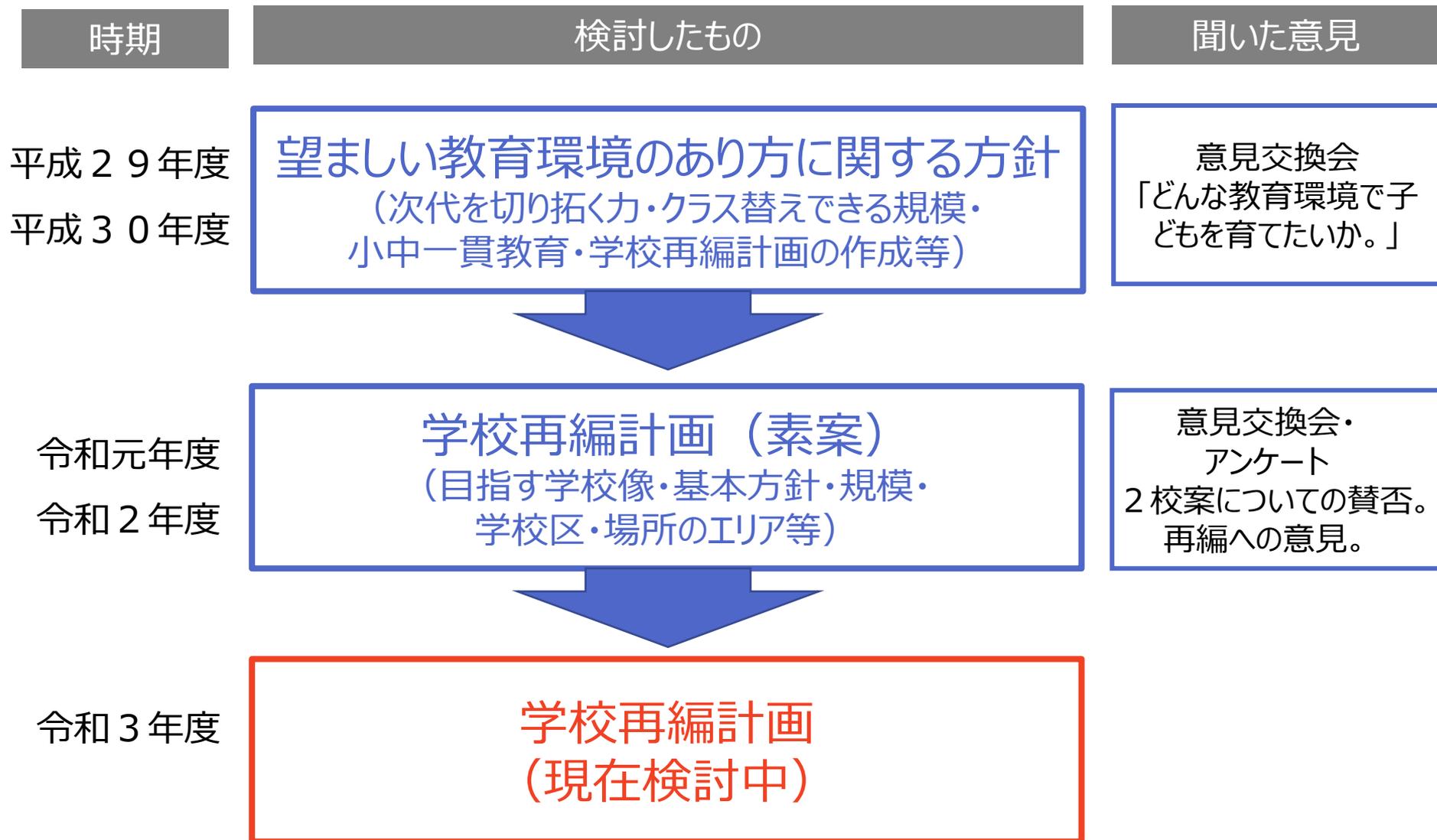
新しい学校って
どんな学校？

～学校再編計画（案）地域説明会資料～

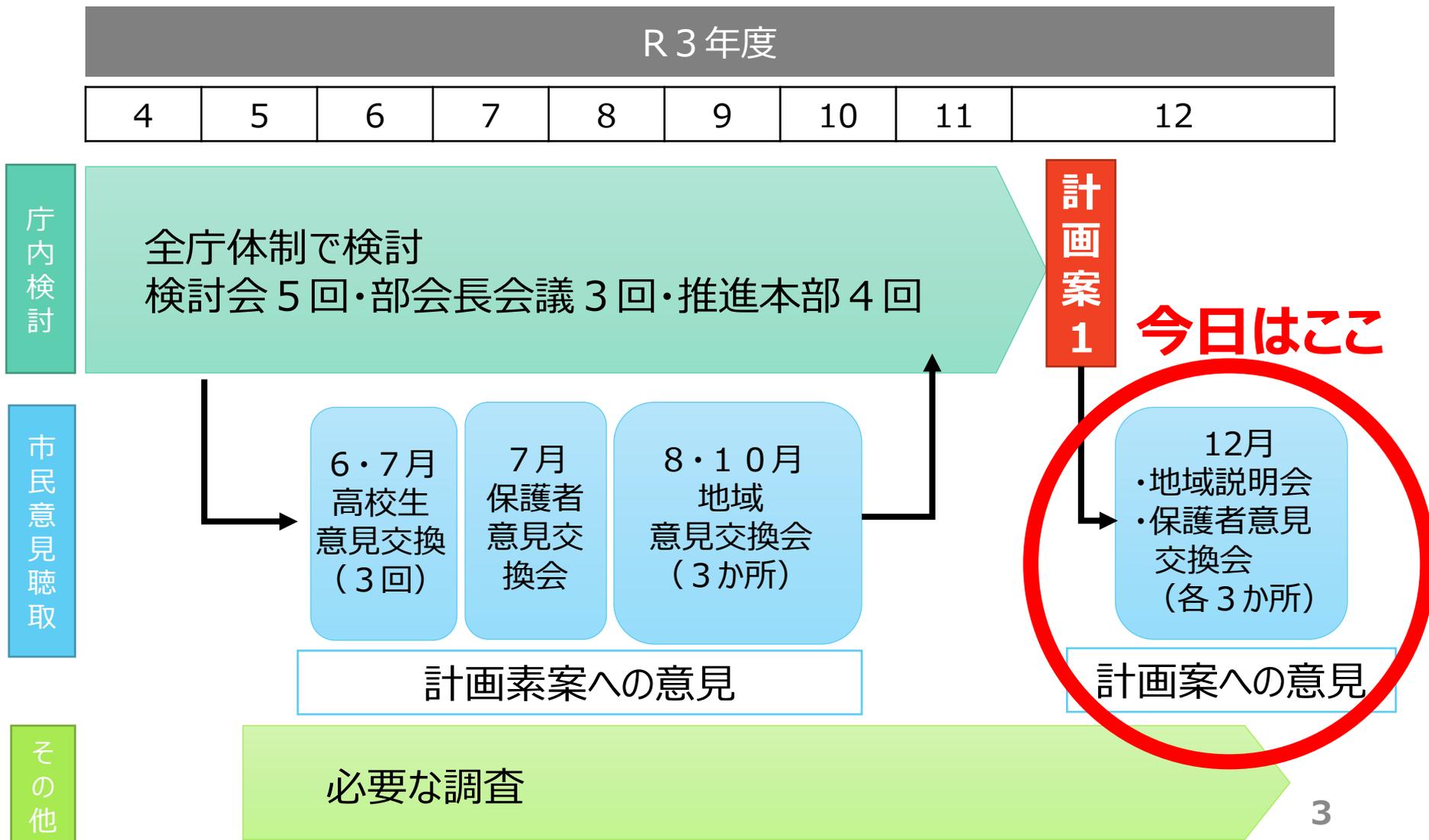
未来の子どもたちのための 新しい学校づくり

令和3年12月 牧之原市教育委員会

これまでの流れ



今日の位置づけ（令和3年度）



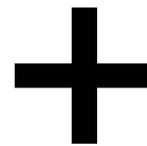
学校再編計画（案）の考え方

- **対象** 市立小学校 8 校、市立中学校 2 校

未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画

学校再編計画（素案）

- ・目指す学校像 ・基本方針
- ・学校区 ・学校の場所（エリア）
- ・開校までのスケジュール



新しい学校
づくりに必
要なソフト



ハードのこと

1 学校区

新しい学区は2つ

学区1（榛原地域）

- 榛原中学校
- 川崎小学校
- 細江小学校
- 勝間田小学校
- 坂部小学校

学区2（相良地域）

- 相良中学校
- 相良小学校
- 菅山小学校
- 萩間小学校
- 地頭方小学校

学校組合について

地頭方小学校

(中学校は御前崎市牧之原市学校組合)

**相良地域の新設する
学校に通う**ことを前提
に御前崎市と協議を
進める

牧之原小・中学校

(牧之原市菊川市学校組合)

今回の再編対象と しない

- 牧之原IC北側開発により人口が増える可能性があるが現段階では判断できない。
- 菊川市も含めた地域住民との協議が必要
- 菊川市の学校の在り方の方向性と合わせて協議

学区の全体図



※児童生徒数及び学級数
(令和3年5月1日現在)

※2030年時点の児童生徒の推計人数

※特別支援学級は、入級人数により学級数が変わります。(1学級9人が上限)

2 義務教育学校 (小中一貫校)

2校を新設

新しい学校は、

義務教育学校を目指す

義務教育学校とは

- 小中一貫校の種類の一つ
- 平成28年の学校教育法の改正で設置ができるようになった新しい種類の学校
- 小学校6年、中学校3年でなく、1年から9年までを1つとした学校
- 教える先生側も1つの組織

義務教育学校でできること①

- 小中学校が同じ方針で子どもを育てることができる
- 現行制度の6年、3年にとらわれず、成長過程に応じた節目がつけられる（日本の学校制度ができたころより、子どもたちの成長は2年程度早くなっている）
- 中1ギャップ（小学校と中学校の違い）でつまづく子が少なくなる

義務教育学校でできること②

- 学校判断で特色ある教育ができる（普通は文部科学省の許可がほしい）例：市民科、コミュニケーション科等
- 小学生に中学校の専門教科の先生が教えることができる
- 幅広い年代の交流ができる

だから義務教育学校！

施設は一体型

施設分離型小中一貫校



施設一体型

小学校・中学校

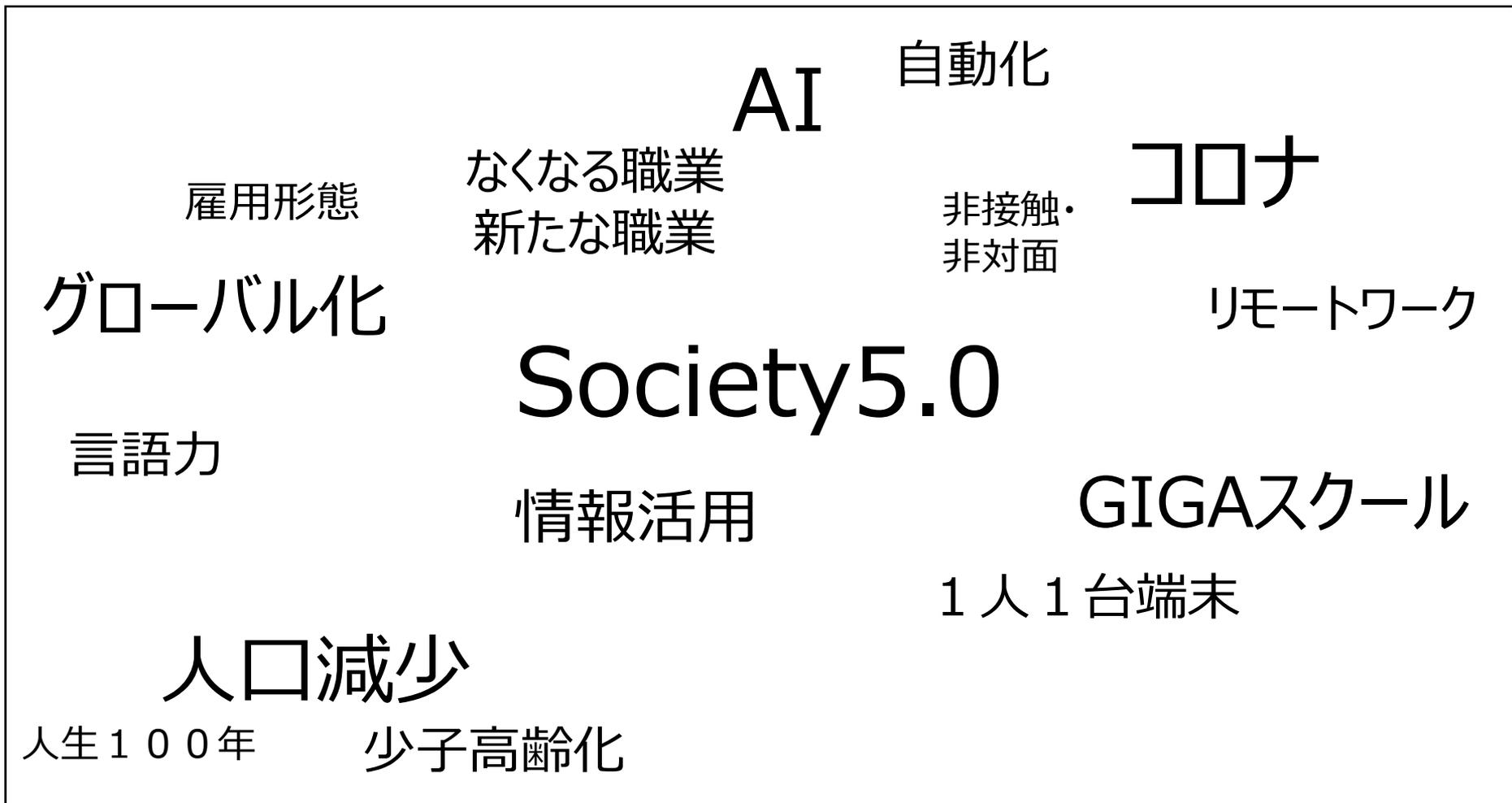


こちら！

- 小学校と中学校が同じ敷地にある施設を施設一体型といいます。
- 小中一貫教育の効果は、施設一体型がもっとも高いという国の調査結果があります。

3 どんな子どもを育てたいか

社会の変化



これからの子どもたちのテーマ「自分らしくどう生きるか」

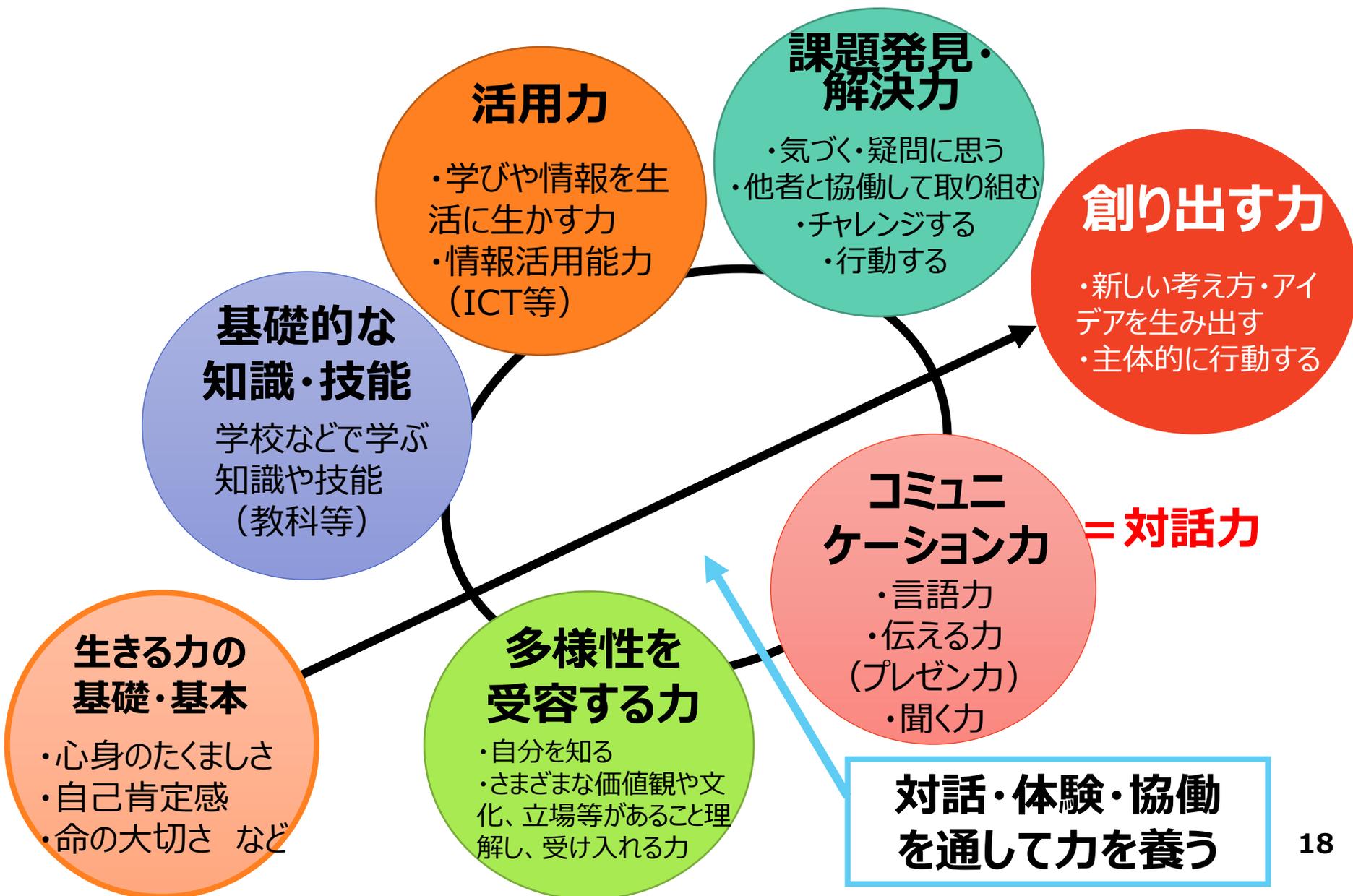
育てたいのは、「次代を切り拓く力」

主体的に社会を
生き抜く人間力

+

新しい価値を
つくる力

次代を切り拓く力の具体



これらを一言で表現すると

待ちではなく
自ら動く！

一步前へ！
未来へ！

踏み出す力

4 どんな学校にするのか



たくさんの仲間や先生と 触れ合う



- クラス替えができる
- 行事の幅が広がる（少人数でやる行事も大人数でやる行事も選べる）



- 切磋琢磨して自分の可能性を伸ばす
- いろいろな友達や先生がいることに気づく

1 学年 3 学級以上の規模



リアルな体験を大切に、 オンラインとのハイブリット化



- 牧之原市だからできるリアルな体験（お茶づくり、農作物栽培・収穫、海と山!）
- 海外とのリモートでの交流、遠隔地の専門家とのリモート講座等

子どもたちのいろいろな興味・
関心を刺激

自然豊かな牧之原市だからできる！
リモートの有効活用！



外との学び

(先生だけでなく、地域社会との交流を通して、
さまざまな人や社会課題と向き合う学び)



- 専門家や地域の人々が指導に携わる体制づくり
- 学校で地域の人と交流

より専門的な学びができる！

地域が好きになる！



学びのサポート

- 低学年は1学級2人体制で指導（学習支援サポーター）が可能
- バイリンガル指導員を学校に常勤
- 学校図書館司書を学校に常勤

グレード
アップ

学校に慣れる・学びやすくなる



心のサポート



- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家に相談しやすい体制
- 不登校の子への学習環境確保（フルール・ICT活用等）

不安を減らす・学習機会の保障



特別支援教育の充実

- 学校を再編することで、支援学級の人数が増え、同学年または近い学年の子と一緒に活動できる
- 9年間の切れ目ない支援ができる
- 専門知識や経験豊富な教員の指導



多様性を大切にする指導



キャリア教育

- 踏み出す力をつける教育（生き方教育）
- 活動を通してできたこと、ついた力を自覚させる
- 起郷家教育プログラムで自分の将来を見通して、自ら動く子どもに！

グレード
アップ

知る・考える・話し合う・共に実行する・改善するを通して力をつける



ICT教育



- プログラミング的思考、情報モラル等の情報活用能力を教科横断的に育成
- ICT指導に長けた専門家（ICT支援員）を配置
- 地理的要因に左右されない教育の質、災害や感染症等発生時の教育活動の継続

端末を文房具に自由な学び
教育機会を保障



異文化を知る・ 外国語を話す機会



- ICTを活用した海外とのコミュニケーションの機会
- ALT（外国語指導助手）を学校に複数名常勤

もっと知りたい・話したいを形に



個別最適な学び

- 教科や授業の内容に合わせた少人数指導
- 学習進度、学習到達度等に応じて学ぶことができる個に応じた指導
- 1人1台端末を活用し、学習状況に応じた教材を提供



その子の分かった！
学びが楽しい！を大切に



防災・防犯



- 防災訓練実施、地域防災訓練参加、防災部局と連携した各種防災教育
- 登下校の見守り（のきさき運動）
- 校内で多くの大人が見守る環境

この地で生きる・みんなで見守る



安全に通学できるように

- 徒歩の距離は2.5 kmを基本
- 自転車を利用する学年の設定やバス代の有償・無償については、来年度から新しい学校ごと協議
- 通学路等の整備



子どもと保護者の負担を少なく！
安全・安心な最適手段を検討する



義務教育9年間の組織づくり



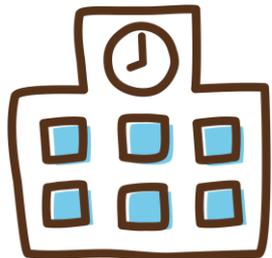
- 小・中の枠でない9年間の育ちと学びを考える
組織づくり



- 人的サポート、業務の役割分担等で子どもの
関わる時間を確保
- 研修の充実

教員が働きやすく、子どもを指導しやすく！

5 どんな施設にするのか



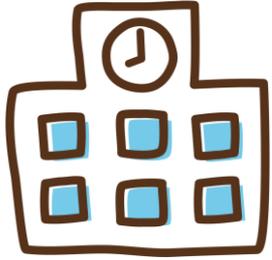
快適な居住空間

- 子どもたちがゆっくり、落ち着いて過ごせる居場所
- 愛着を育むことができるよう快適で温かみがある生活空間



- 採光や通風等に配慮（明るく、風通しがいい）
- 子どもたちのリフレッシュの場（コミュニケーションや休憩を取ることができる空間）

学校は、子どもたちの社会性・人間性を育む場でもある！

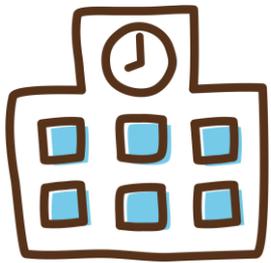


インクルーシブな環境



- 車いす利用者用トイレやスロープ等による段差解消、エレベーターの設置等バリアフリー化
- 特別支援学級や通級の子どもたちが、落ち着いて学習できるスペースやクールダウンできるスペース、医療ケアの実施に配慮されたスペース等

障害、性別、国籍、経済上の理由などにかかわらず、「共に育つ」ことを基本理念に

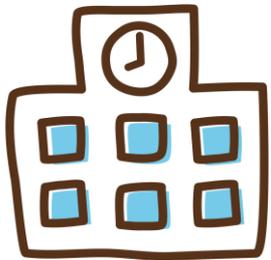


学校図書館の整備



- 図書館の配置と機能の拡充

効果的な学習活動と子どもの居場所づくり

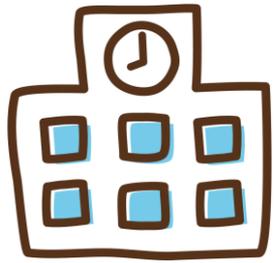


健やかで衛生的な環境



- コロナ感染症に対応した設備とスペースの確保
- 断熱性の確保と冷暖房、トイレの洋式化・乾式化

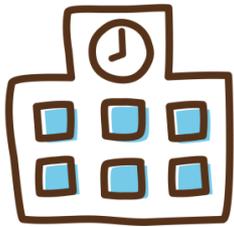
新しい生活様式・熱中症等に対応



多様な学習活動ができる空間

- 一人一台端末環境等に対応し、余裕のある教室サイズ
- 校内のどこでも日常的にICTが活用できるネットワーク環境
- 教室、ワークスペース、テラス等がつながり、活動に応じて自由に空間を選べるようにする工夫
- 少人数活動のためのワークスペースや個人活動のためのパーソナルスペース、教科等に対応した特別教室ゾーン等の有効性の検証

**あらゆる空間が学びの場、教育の場、
表現する場、心を育む場**



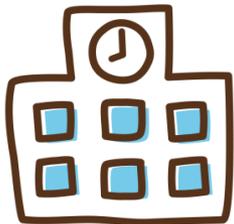
設備や家具の工夫



- 教室空間を最大限活用するための家具等の配置（ロッカー、充電保管庫を可動式にする等）
- 遠隔・オンライン授業に対応できる設備、教職員のためのICT環境を整備



活動空間を最大限生かす・多角的な学習・活動を展開

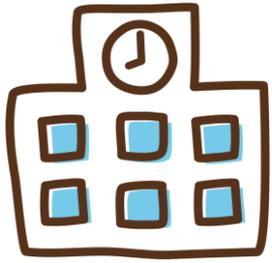


教室環境の向上



- 多目的な活用が可能となる教室
- 教職員の視野に活動全体ができるだけ入るような間仕切りのあり方等に配慮

多様な学習活動に柔軟に対応できる

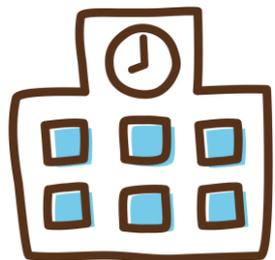


小中一貫教育に対応した環境

- 発達段階に対応した空間構成、施設機能、異学年交流スペースの充実
- 施設一体型の校舎の特性、教育効果等を十分に考慮
- 安全性を確保した教室の配置や環境整備



9年間の系統性・連続性のある教育活動を効果的に実施できる環境



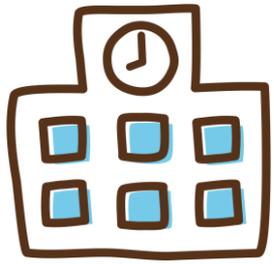
安全・安心の確保と防災機能の強化



- 構造体だけでなく天井や外壁等の非構造部材、その他工
作物等の安全性の確保
- 児童生徒と地域の方等との動線の整理や、死角をつくらな
いための設計上の工夫など防犯の視点
- あらかじめ災害に対する安全を確保するだけでなく、災害時
の適切な避難経路を確保
- 避難所としての防災機能の強化（備蓄機能など）
- 自家発電設備、ユニバーサルデザインの採用やバリアフリー化



安全・安心で利用者すべてに優しい施設

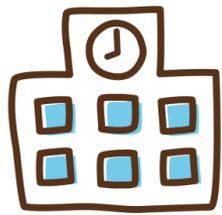


脱炭素社会の実現



- 屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光などの再生可能エネルギーの導入等検討

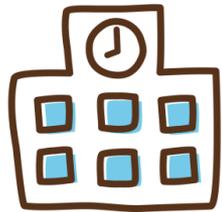
地球温暖化防止対策を講じた施設



活動しやすい コミュニティ・スペース



- 多様な人が執務したり作業したりできるスペース
- 情報交換やコミュニケーションを取れるスペース

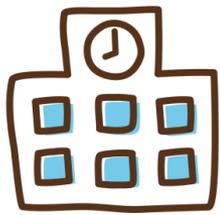


交流の拠点



- 学校施設の機能を拡充して、地域の人が利用できるよう高機能化・多機能化
- 事故防止や防犯にも配慮

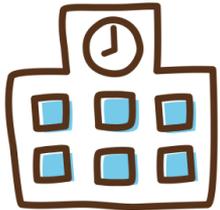
地域との交流・地域の活動促進



効果的・効率的な執務環境



- 効果的・効率的に授業の準備や研修等行える機能の確保
- 職員室には、必要な広さの執務スペースを確保
- 常時ICTが活用できる環境整備
- 活用しやすいよう電源や配線、セキュリティ等の確保



創造的な執務環境



- 小・中学校段階を1つにした職員室
- 職員室近辺には、教職員同士又は多くの関係者と連携・交流、打ち合わせ等ができる共有スペース

やりがいを持ち、生き生きと働くことができる

学校の場所

津波浸水想定区域外に安全な学校施設をつくるため、次のエリアを校地として選定します。

1. 榛原地域については、榛原中学校からぐりんぱる周辺
2. 相良地域については、相良総合センター「い〜ら」から相良総合グラウンド周辺

選定にあたっては

エリア内の候補地について必要な調査をし、校地を選定できるようにする

次の条件に合い、総事業費が抑えられる場所

1. 津波浸水想定区域外で、災害に強い施設が建てられること。
2. 児童生徒の安全面を考慮するとともに、できるだけ多くの児童生徒が、徒歩または自転車で通うことができる場所とすること。
3. 学校周辺の道路やインフラ等の状況を踏まえ、関係部署と連携を図り、都市計画等の他計画との融合を図って校地を選定すること。

開校時期

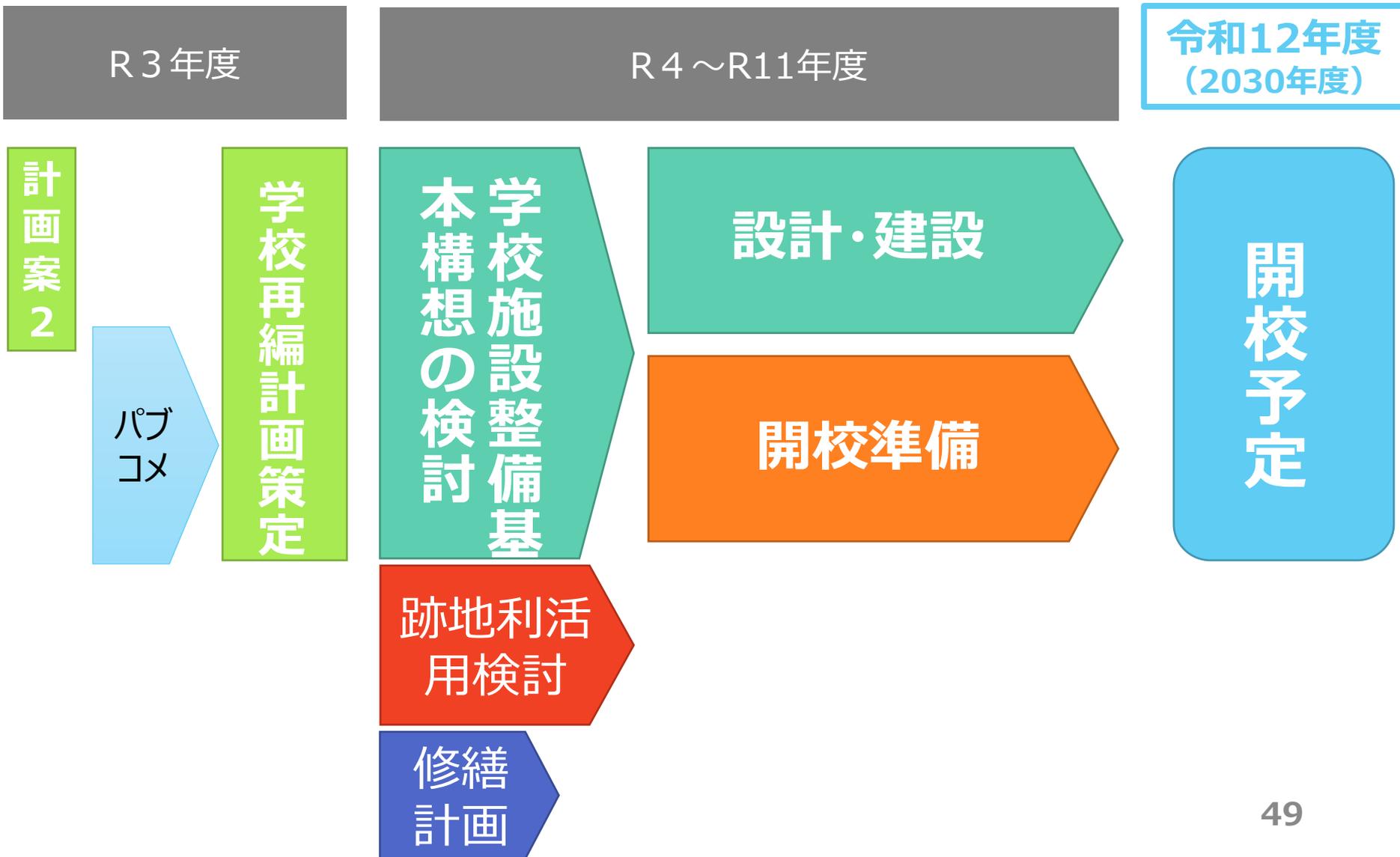
令和12年度
(2030年度)

を目指す

※開校は2校同時でない場合がある

6 推進に向けて (今後の進め方)

今後（説明会以降）の進め方



スケジュール (案)

年 月	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12
A・B校	計画・構想	策定 学校再編計画	周知 学校施設基本構想・ 基本計画 2校・校区での検討							
	校舎建設			基本設計 実施設計 (用地取得) ・造成等		建設工事		開校		
A校	開校準備	小中一貫教育の研究等		(仮)開校準備委員会 校区における開校に向けての 各種検討						
B校	校舎建設					基本設計 実施設計 (用地取得) ・造成等		建設工事		開校
	開校準備	小中一貫教育の研究等				(仮)開校準備委員会 校区における開校に向けての 各種検討				
既存学校	跡地利活用	利活用検討								

Q どんな施設になる？施設の配置は？ どう決まるの？

学校施設整備基本構想（R4・5年度 を想定）で検討します。

「脱・標準」の牧之原市らしい、地域性に合った学校
長く地域に愛され、子どもたちの誇りとなる学校に

【検討内容】

- 学校のコンセプト、校舎の配置、体育館や教室数等の具体検討
- 通学方法

【検討方法】

- 学校の保護者、教職員、地域の人意見を反映できる形で進める

Q 通学方法はいつ決めるの？

学校施設整備基本構想（R4・5年度を想定）で検討します。

Q 新しい学校のルールや校歌、PTA組織などはいつ決めるの？

開校4～5年前から
（仮）開校準備委員会で協議します。

Q 跡地利活用の検討はいつするの？

- 令和4, 5年度を想定。
- 老朽化の程度や市の公共施設としてのバランス、市のまちづくりの観点から、新しい学校施設の検討とは別の委員会等を立ち上げる。
- 既存施設の用途替えや除却等も含めた利活用について、将来の牧之原市に過大な負担を残さないよう、財源や維持管理方法等も含めて、効果的な利活用を検討していきます。

全庁体制で進めます

- 各種計画における建設候補地や再編後の学校施設の位置づけの変更、跡地の利活用、公共交通機関との連携、中長期的な財政計画の作成、新しい学校の機能の検討等が必要
- まちづくりや他の市の政策とも大きく関係するため、教育委員会部局と市長部局が横断的に検討を行い、全庁体制でこれを推進する

Q これからの牧之原小中学校はどうなるの？

●小中一貫教育の充実

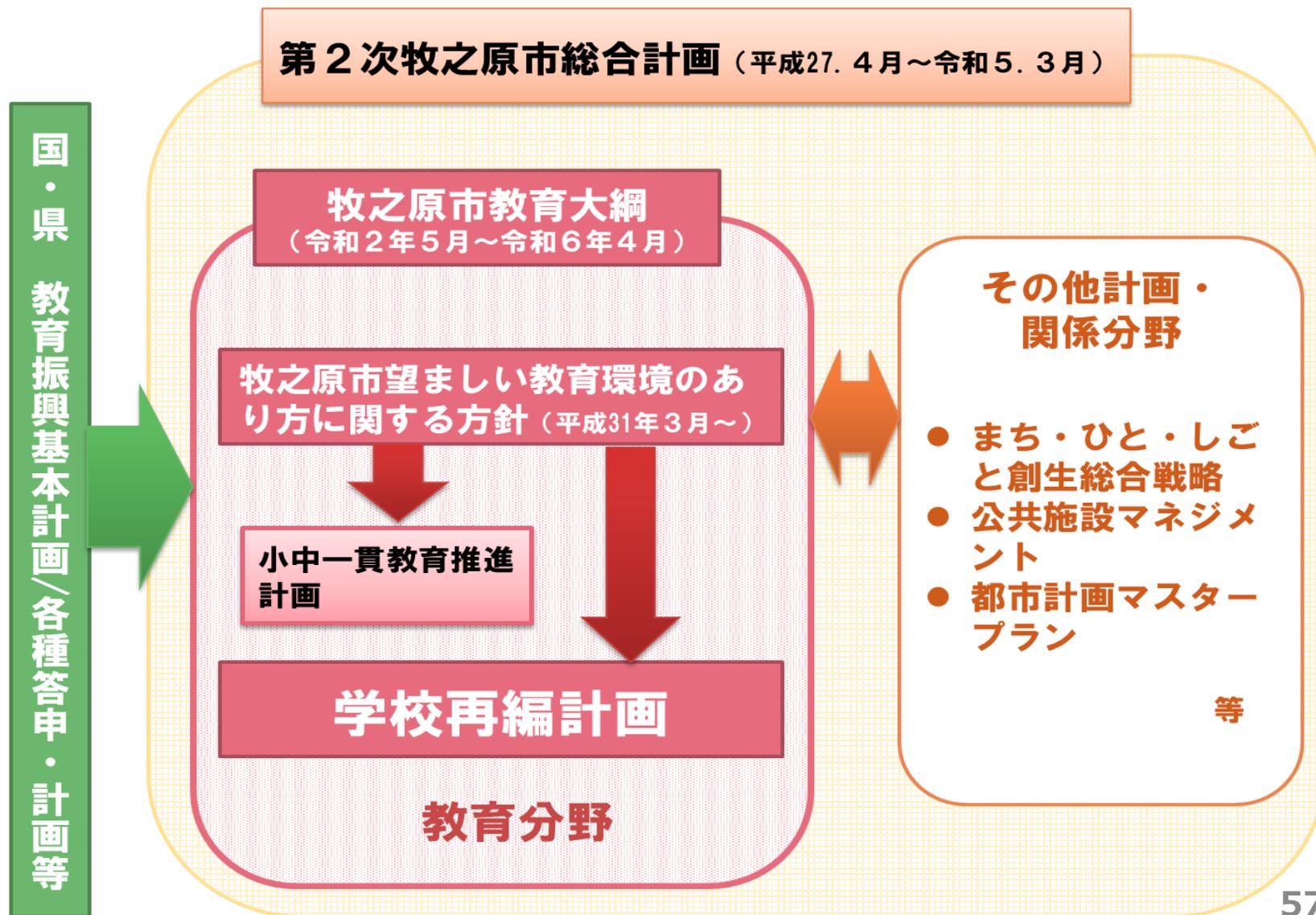
●牧之原小中学校らしい教育の充実

- 学校組合教育委員会（政策等）
- 学校組合議会（予算等）
- 菊川市教育委員会（構成市の考えのすり合わせ）

+ 保護者・地域の意見を聞く

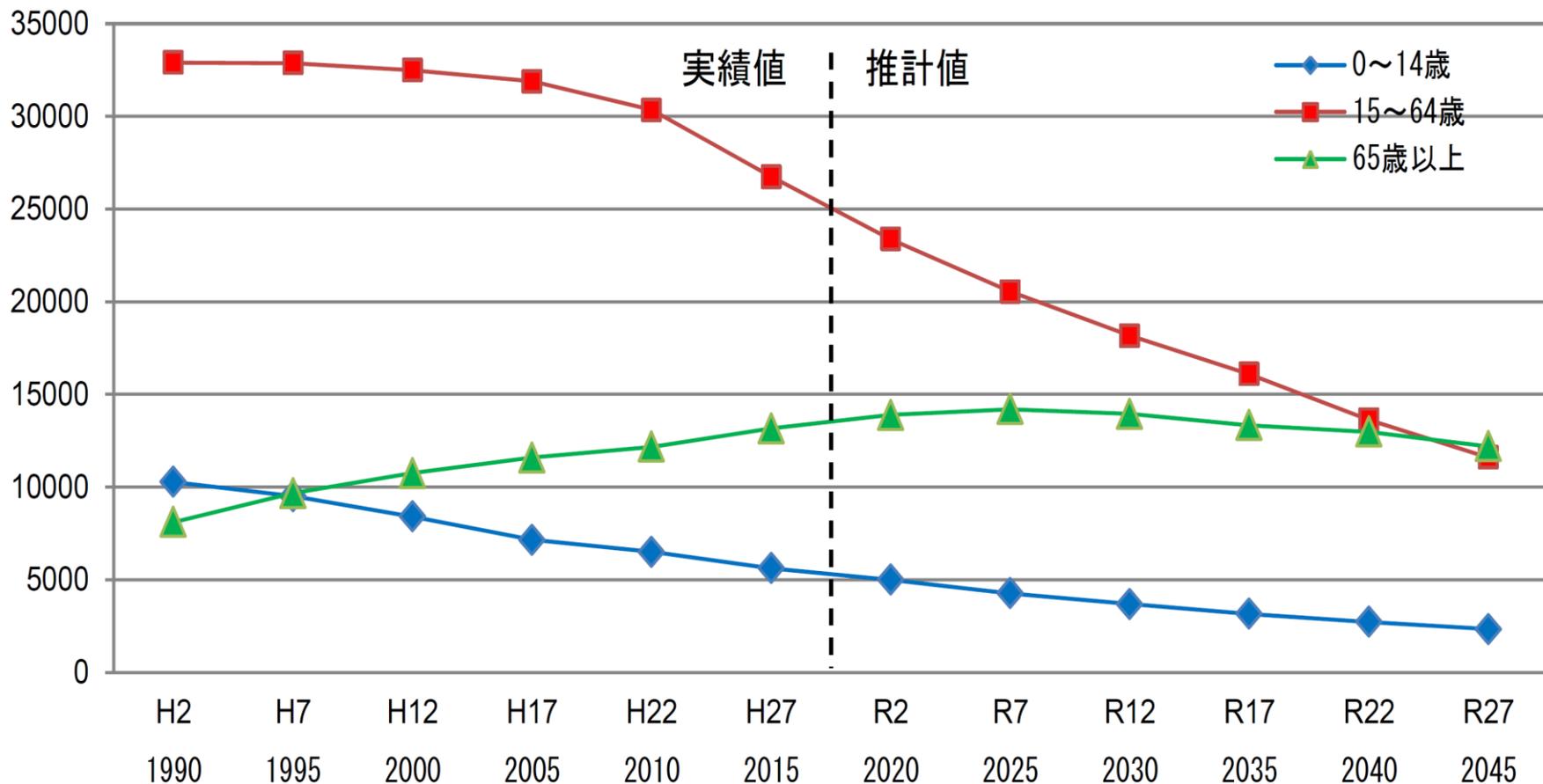
参考

計画の位置づけ



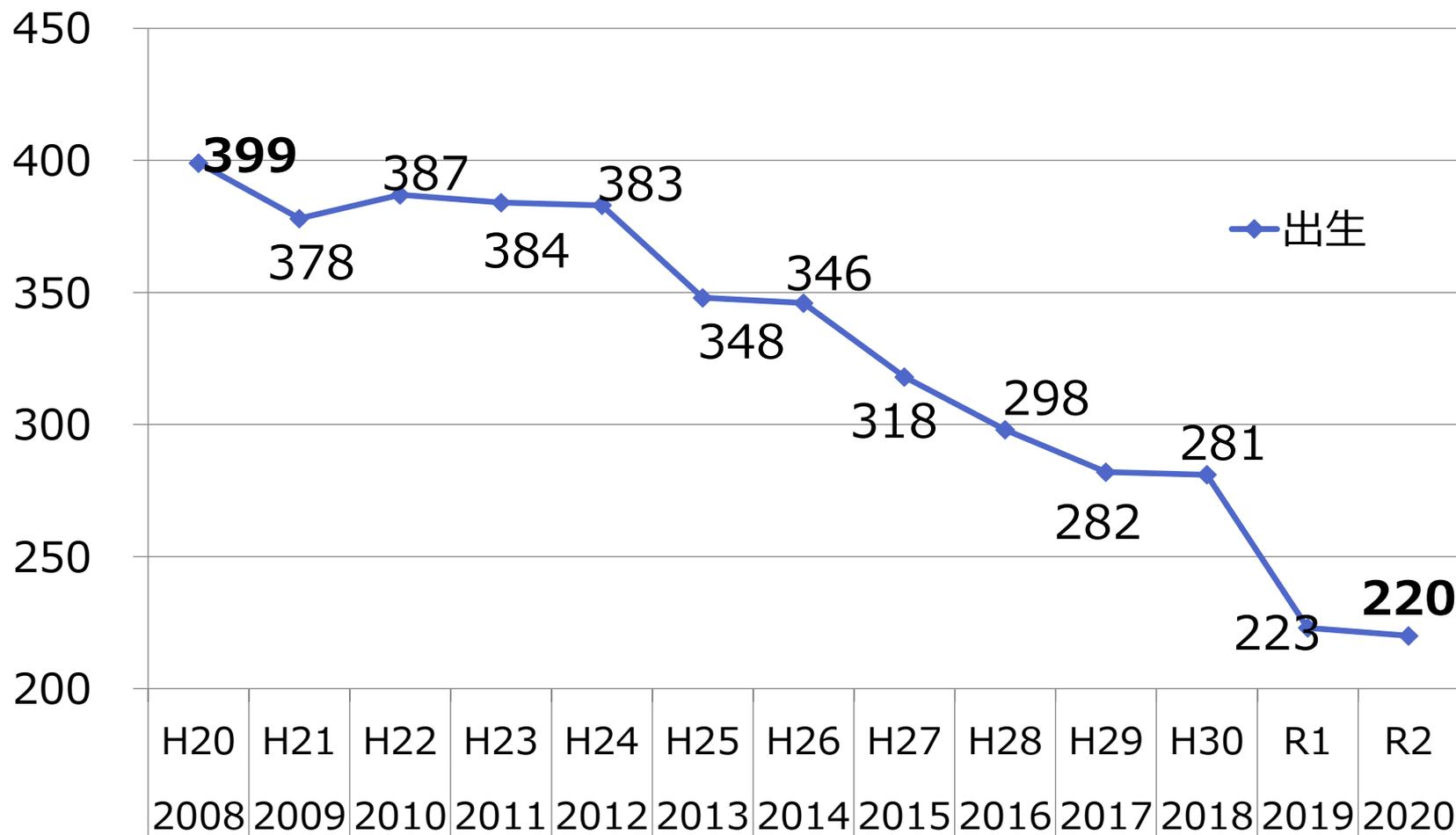
年齒別人口

(單位：人)



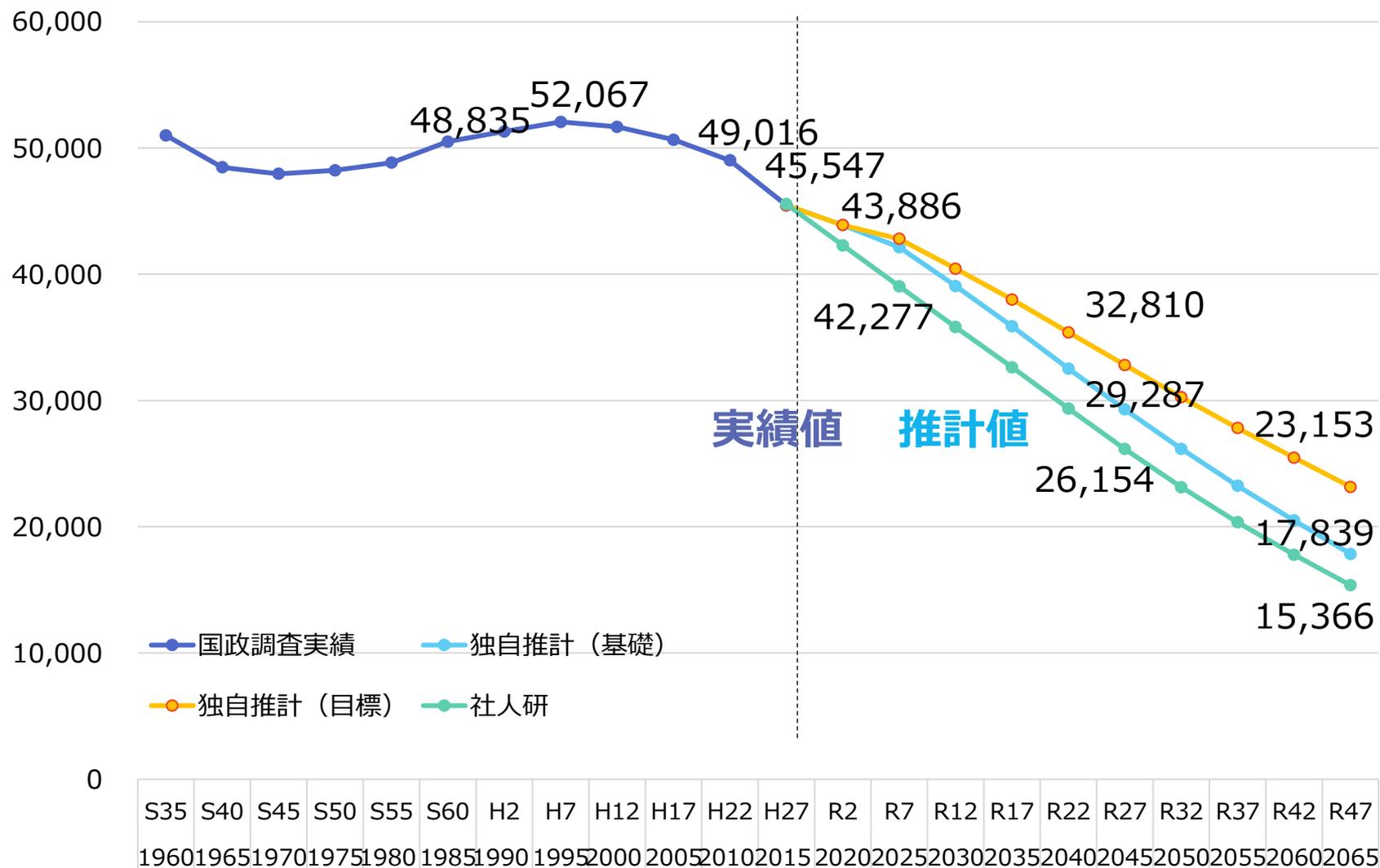
出典 国勢調査、社人研推計人口

出生数の推移



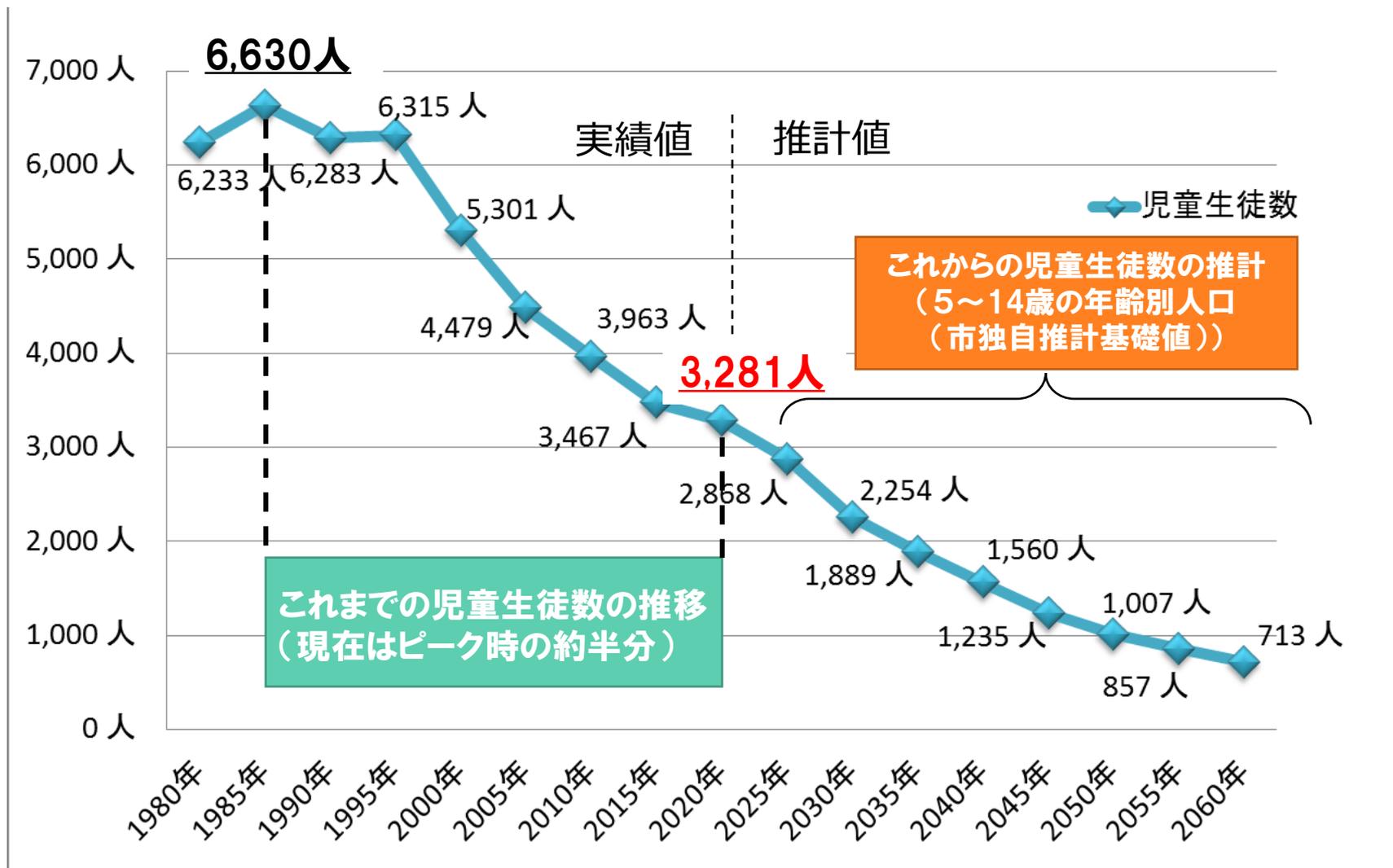
出典：住民基本台帳人口

人口の推移と推計



出典：国勢調査、市人口ビジョン（第2期）、社人研推計

児童生徒数の推移と推計



※牧之原市が令和2年8月に示した人口ビジョン案の市独自推計（基礎値）に基づき算出。政策反映なしパターン。
5歳ごとの人口統計となるため、未就学である5歳児分が入っている（1学年分多い）。

現在の学区

校種 管理者

牧之原市立

御前崎市牧之原市
学校組合立

牧之原市菊川市
学校組合立

中学校
(3学年)

榛原中学校(554人)

普 549人・17学級
特 5人・1学級(知)
特 -

相良中学校(400人)

普 395人・12学級
特 2人・1学級(知)
特 2人・1学級(自・情)

御前崎中学校(365人)

普 352人・12学級
特 7人・3学級(知)
特 6人・2学級(自・情)

牧之原中学校(73人)

普 71人・3学級
特 2人・1学級(知)
特 -

進学

進学

進学

進学

小学校
(6学年)

川崎小学校(406人)

普 397人・15学級
特 8人・1学級(知)
特 1人・1学級(自・情)

相良小学校(472人)

普 448人・16学級
特 14人・2学級(知)
特 10人・2学級(自・情)

地頭方小学校(193人)

普 186人・6学級
特 2人・1学級(知)
特 5人・1学級(自・情)

牧之原小学校(170人)

普 165人・7学級
特 4人・1学級(知)
特 1人・1学級(自・情)

細江小学校(407人)

普 398人・13学級
特 6人・1学級(知)
特 3人・1学級(自・情)

菅山小学校(136人)

普 128人・6学級
特 5人・1学級(知)
特 3人・1学級(自・情)

勝間田小学校(132人)

普 129人・6学級
特 3人・1学級(知)
特 -

萩間小学校(150人)

普 144人・6学級
特 4人・1学級(知)
特 2人・1学級(自・情)

坂部小学校(116人)

普 112人・6学級
特 2人・1学級(知)
特 2人・1学級(自・情)

※児童生徒数及び学級数
(令和3年5月1日現在)

学校規模

文部科学省の基準

分類	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校学級数	1～5	6～11	12～18	19～30	31以上
中学校学級数	1～2	3～11			

- 文部科学省が定める学校基準に基づくと、市内12校は・・・

●小規模校 7校

(菅山小・萩間小・地頭方小・牧之原小・
勝間田小・坂部小・牧之原中)

●適正規模校 5校

(相良小・川崎小・細江小・相良中・榛原中)

学校施設の現状

- 学校施設は、公共施設の延床面積の約40%を占める
- **ほとんどの学校が建築してから40年以上経過していて、一番古い学校は59年経っている**

学校名	名称	建築年	築年数	備考
相良小学校	A棟	昭和59年2月	37	
	B棟	昭和48年3月	48	
	C棟	昭和57年6月	39	
菅山小学校	(管理教室棟)	昭和56年3月	40	校舎は1棟扱い
	(教室棟)	平成5年3月	28	
萩間小学校	北校舎	昭和47年3月	49	
	南校舎	昭和40年11月	56	
地頭方小学校	管理棟	昭和48年12月	48	
	1棟	平成2年2月	31	
	2棟	昭和40年3月	56	
牧之原小学校	(管理教室棟)	昭和45年3月	51	

学校名	名称	建築年	築年数	備考
川崎小学校	A棟	昭和43年3月	53	
	B棟	昭和43年2月	53	
	C棟	昭和55年6月	41	
細江小学校	北校舎	昭和45年3月	51	
	南校舎	昭和57年2月	39	
勝間田小学校	(管理教室棟)	昭和39年3月	57	
坂部小学校	(管理教室棟)	昭和37年8月	59	
相良中学校	南校舎	昭和50年8月	46	
	中校舎	昭和50年8月	46	
	北校舎	昭和50年9月	46	
榛原中学校	A棟	昭和48年7月	48	
	B棟	昭和47年3月	49	
牧之原中学校	(管理教室棟)	昭和53年1月	43	64

